

被災地現場レポート「私達日本人は必ず復興できる」

3月20日夜、国会内地震対策本部を出て、救援物資を積んで、宮城に向かい、翌21日の深夜に戻りました。11日の地震発生以来、宮崎は支援物資の確保調整に走り廻る日々。橘は幹事長補佐として、国会内対策本部（幹事長室）で格闘する毎日。今回訪れたのは、情報を受けていて、一番混乱と錯綜が激しい地域。現地現場がどうなっていて、何が必要か、足立区の斉藤 義弘氏とともに実際に見て参りました。

○石巻市にて

まず荒涼たる光景に衝撃を受けました。津波跡で、ドラゴンボールの子ども鞆、子ども達の写真を見つけ、涙が止まらなくなりました。昨日、久々に帰った自宅で我が子達とちょうどドラゴンボールと一緒に見たばかりでした。石巻市災害対策本部の副市長に鞆と写真を託し、石巻を後にしました。



○支援物資をお渡しする／避難所のニーズ

石巻市立港小学校（避難所）を訪問し、①24時間ろうそく、②生理用品、③紙コップ・紙皿、④カップラーメン、⑤ペットボトルお茶、⑥バンドエイドをお渡ししました。

避難所の方々に伺うと、必要な物資として、①女性用下着・男性用下着、②ストーブ、

③ドラムロール、④文房具、⑤ペット用のフード、⑥生理用品、⑦ドライシャンプーを挙げられました。



○東松島市にて



東松島市の被害も甚大。写真は避難所を兼ねた市対策本部に貼り出された亡くなった方の名簿です。

○南三陸町にて

世帯5, 500世帯の7割が壊滅、人口1万7300人の内、現在行方不明者が1万人を超える南三陸町。想像を絶する光景が広がっていました。写真は、3階建ての団地の屋上に津波により、自動車が乗り上げている状況。



○被災自治体のニーズ

御自身も行方不明になった南三陸町の佐藤町長を始め、自治体の方々にお会いしました。国への要望は、①廃棄物（瓦礫の山）処理の責任は市町村になっているがとても不可能、支援を。②生活再建支援制度の拡充（300万円では家の再建は無理）③仮設住宅建設への支援を。④部落単位での疎開。

○被災地現場で感じたこと

今回の支援活動・現地視察をまとめると「百聞は一見に如かず」。自身ひどくショックを受けました。国会の幹事長室で情報を受けていた際に思いもよらなかった現実が現地にはありました。

◎私達日本人は必ず復興できる



仙台市宮城野区では、生活物資を求める人々の行列、ガソリンを求める数 km の車の行列。皆さん、行儀良く整然と並んでおられます。そこへ、ちょうどタンクローリーが到着。

海外から称賛される危機に際しても道徳を失わない日本人の良さを垣間見、誇りに思いました。「私達日本人は復興できる！」そんな思いを新たにしました。